

# 県内スポーツ施設の現状と課題 (概要)

教育委員会事務局スポーツ振興課

平成24年10月

## 1 趣 旨

将来の国体等の開催を見据え、生涯スポーツや競技スポーツなど、多様なスポーツ活動に対応した県民総スポーツの推進拠点の整備が必要とされている。

そこで、近年の国体開催県の動向を踏まえながら、市や町のスポーツ施設も含め、国体の開催会場として想定されるスポーツ施設の現状と課題を把握し、今後、県内スポーツ施設の整備・更新の必要性などの検討を行うための基礎資料とする。

## 2 県内スポーツ施設の現状把握

県や市町が所有するスポーツ施設について、国体開催会場として想定される施設の観客席数や競技面数などの規模や、過去の主要な大会の開催実績等の現状を把握する。

### (1) 施設規模による現状把握

国体開催会場として想定される「国民体育大会施設基準」(以下、「国体開催基準」)を満たす施設や、一定規模以上の観客席数、競技面数を有するスポーツ施設について「表1 施設規模の現状」に整理する。

表1 施設規模の現状

施設名	仕様・規模	席数	建設	備考
陸上競技場	【第1種公認競技場】			
	県総合運動公園陸上競技場		S53	
	【観客席5,000席以上】			
	県総合運動公園陸上競技場	24,000席	S53	再掲
	足利市総合運動公園陸上競技場	7,500席	S22	
	栃木市総合運動公園陸上競技場	5,500席	S63	○
	佐野市総合運動公園陸上競技場	6,000席	H2	○
サッカー場	【観客席5,000席以上】			
	県総合運動公園陸上競技場	24,000席	S53	再掲
	県グリーンスタジアム	15,589席	H5	○
	足利市総合運動公園陸上競技場	7,500席	S22	再掲
	栃木市総合運動公園陸上競技場	5,500席	S63	○ 再掲
ホッケー場	【規定の競技場2面】			
	今市青少年スポーツセンター人工芝競技場		H3	○
	日光市ホッケー場		H23	○
	【観客席有】			
	今市青少年スポーツセンター人工芝競技場	270席	H3	○ 再掲
	日光市ホッケー場	200席	H23	○ 再掲
野球場	【観客席5,000席以上】			
	県総合運動公園硬式野球場	15,365席	S54	
	清原球場	30,000席	S62	○
	鹿沼運動公園野球場	13,500席	S53	
	佐野市運動公園野球場	11,390席	S52	
	宮原運動公園野球場	9,089席	S36	
	美原公園野球場	9,000席	S26	
	栃木市総合運動公園野球場	7,557席	S58	○
	御殿山公園野球場	6,000席	S25	
小山運動公園野球場	5,500席	S48		

※「建設」欄の「○」は栃の葉国体後に建設された施設



施設名	仕様・規模	席数	建設	備考
弓道場	【基準を満たす（遠的場を有する）施設】 県体育館弓道場		S54	遠的
	【観客席を有する施設】 宇都宮市弓道場	87席	H3 ○	
相撲場	【基準を満たす（観客席を有する）施設】 県総合運動公園相撲場	602席	S28	○
	大田市美原公園相撲場	500席	H18	
プール	【日本水泳連盟公認の25m、50mプール有する施設】 県総合運動公園水泳場		S53	再掲
	県立温水プール館		H12 ○	
	【日本水泳連盟公認の飛込用プール有する施設】 県総合運動公園水泳場		S53	
	【観客席を有する施設】 県総合運動公園水泳場	1,000席	S53	
	県立温水プール館	1,005席	H12 ○	
	足利市総合運動場プール ドリームプールかわち	900席 192席	S35 H13 ○	
アーチェリー場	【基準を満たす（観客席を有する）施設】 那珂川町小川運動場	1,000席	S52	

※「建設」欄の「○」は栃の葉国体後に建設された施設

## (2) 主要な大会実績等による現状把握

過去5年間における関東大会以上の主な大会実績（プロスポーツ等の大会も含む）を有する施設は「表2 大会実績による施設の現状」のとおりである。

表2 大会実績による施設の現状

競技種目	県（関係団体）所有スポーツ施設	市町所有スポーツ施設
陸上競技場	県総合運動公園陸上競技場	
サッカー場	県グリーンスタジアム	宇都宮市サッカー場 足利市総合運動公園 栃木市総合運動公園 小山運動公園陸上競技場兼サッカー場
ホッケー場	今市青少年スポーツセンター人工芝競技場	
野球場	県総合運動公園硬式野球場	清原球場
ソフトボール場		駒生運動場野球場 美原公園野球場
ラグビー場	県グリーンスタジアム	足利市総合運動公園
テニス場	県総合運動公園テニスコート	くろいそ運動場テニスコート
体育館	県体育館本館 県立県南体育館 県立県北体育館	宇都宮市体育館 清原体育館 鹿沼総合体育館
武道場（館）	県体育館武道館	宇都宮市体育館武道場
弓道場	県体育館弓道場	宇都宮市弓道場
相撲場	県総合運動公園相撲場	
プール	県総合運動公園水泳場 県立温水プール館	
アーチェリー場		那珂川町小川運動場

### 3 スポーツ施設が抱える課題の整理

表1、表2で整理した県内の主要なスポーツ施設（56施設）について、老朽化や規格・規模、プロスポーツ支援の観点から、それぞれのスポーツ施設が抱える課題を整理する。

#### (1) 主要なスポーツ施設の老朽化による検証

県内の主要なスポーツ施設56施設のうち、設置後30年以上経過した施設を「表3 経過年数が30年以上の主要なスポーツ施設一覧」のとおり整理する。

表3 経過年数が30年以上の主要なスポーツ施設一覧

施設	施設名	市町	経過年数(設置年)	備考
陸上競技場 (1/4)	県総合運動公園陸上競技場	宇都宮市	34年(昭和53年)	
サッカー場 (3/6)	県総合運動公園陸上競技場 宇都宮市サッカー場 小山運動公園陸上競技場兼サッカー場	宇都宮市 宇都宮市 小山市	34年(昭和53年) 33年(昭和54年) 39年(昭和48年)	再掲
ホッケー場 (0/2)				
野球場 (7/9)	県総合運動公園硬式野球場 宮原運動公園野球場 佐野市運動公園野球場 鹿沼運動公園野球場 御殿山公園野球場 小山運動公園野球場 美原公園野球場	宇都宮市 宇都宮市 佐野市 鹿沼市 鹿沼市 小山市 大田原市	33年(昭和54年) 51年(昭和36年) 35年(昭和52年) 34年(昭和53年) 62年(昭和25年) 39年(昭和48年) 61年(昭和26年)	
ソフトボール場 (4/5)	駒生運動場野球場 美原公園野球場 美原公園第2球場 那珂川町小川運動場	宇都宮市 大田原市 大田原市 那珂川町	47年(昭和40年) 61年(昭和26年) 33年(昭和54年) 34年(昭和53年)	再掲
ラグビー場 (0/3)				
テニス場 (3/6)	足利市総合運動公園テニスコート 小山運動公園テニスコート くろいそ運動場テニスコート	足利市 小山市 那須塩原市	52年(昭和35年) 36年(昭和51年) 39年(昭和48年)	
体育館 (3/8)	県体育館 宇都宮市体育館 足利市民体育館	宇都宮市 宇都宮市 足利市	47年(昭和40年) 33年(昭和54年) 34年(昭和53年)	
武道場(館) (2/4)	県体育館武道館 宇都宮市体育館武道場	宇都宮市 宇都宮市	35年(昭和52年) 33年(昭和54年)	
弓道場 (1/2)	県体育館弓道場	宇都宮市	近的:35年(S52) 遠的:33年(S54)	
相撲場 (0/2)				
プール (1/4)	県総合運動公園水泳場	宇都宮市	34年(昭和53年)	
アーチェリー場 (1/1)	那珂川町小川運動場	那珂川町	35年(昭和52年)	

※以下の施設は大規模改修を実施しているため除外している。

- ・足利市総合運動公園陸上競技場(昭和22年):平成11年に改修実施
- ・県総合運動公園テニスコート(昭和25年):平成2年に改修実施
- ・栃木市総合体育館(昭和54年):平成22年に改修実施
- ・県総合運動公園相撲場(昭和28年):平成7年に改修実施
- ・足利市総合運動場プール(昭和35年):昭和62年に改修実施

(総括)

- ・主要スポーツ施設（56施設）のうち、約半数（26施設）が30年を経過している。
- ・野球場、ソフトボール場は既存施設の老朽化が著しい。
- ・県総合運動公園の陸上競技場や飛込プール、県体育館の弓道場（遠的）は県内で唯一の施設であるが、設置後30年以上が経過している。なお、アーチェリー場の経過年数は35年であるが、主要な建築施設や附帯設備はない。

## (2) 主要なスポーツ施設の規格・規模等による検証

将来の国体等の大会を開催することを踏まえ、国体施設基準に規定されている条件から、県内のスポーツ施設が抱える課題を整理する。

(施設の規格について)

- ・国体開催には、第1種陸上競技場が必要であり、附帯する補助競技場は第3種公認競技場とすることが必要である。

(施設の規模について)

- ・県総合運動公園陸上競技場は、国体の総合開・閉会式の会場と想定されるため、仮設も含めて約30,000席程度規模の観客席が必要である。

(競技面数について)

- ・競技面数において単独施設による開催が困難な競技は、複数の会場を使用することで開催が可能である。
- ・体育館において設備等が不足している競技（ボクシング、山岳競技）は、仮設等の対応が必要である。
- ・水泳競技（競泳、飛込・シンクロナイズドスイミング、水球）は各競技種目毎の会場を確保することが望ましい。
- ・水泳競技のうち、シンクロナイズドスイミング用の公認プールを確保する必要がある。

(運営面について)

- ・国体の総合開・閉会式場の雨天対策用として体育館を確保する必要がある。
- ・柔道場に隣接した練習場を確保する必要がある。
- ・体育館や武道場（館）には、練習会場となるサブ施設が必要である。
- ・水泳競技（競泳、飛込・シンクロナイズドスイミング、水球）の各種目別の施設は至近にあることが望ましい。

## (3) プロスポーツの支援の観点による検証

○サッカー場

- ・現在Jリーグの基準を満たすサッカー場はグリーンスタジアムのみである。
- ・Jリーグのクラブライセンス制度が導入され、同制度の施設基準の中で努力目標としているものが、将来の正式な基準になる可能性も含んでおり、基準変更に対応できる施設の確保が望まれる。

○体育館

- ・県内の体育館の施設規模は、最大でも2,000席程度であり、プロスポーツの観戦者数に対して、観客席数が不足しているため、一定規模の施設の確保が望まれる。

#### (4) 総括(検証結果)

県内の主要なスポーツ施設について、老朽化や規格・規模、プロスポーツ支援の観点による検証結果から、課題を抱える県内スポーツ施設を抽出して、考慮すべき事項を整理した。

##### (検証結果)

###### ○陸上競技場及び補助競技場

- ・ 県内唯一の第1種公認競技場である県総合運動公園陸上競技場の老朽化
- ・ 県総合運動公園陸上競技場の第1種公認更新（附帯する補助競技場の第3種競技場化）
- ・ 国体の総合開・閉会式会場として想定した場合の観客席数の確保

###### ○体育館

- ・ 宇都宮市内の県体育館本館、宇都宮市体育館、足利市民体育館の老朽化
- ・ 国体の総合開・閉会式会場として想定した場合の雨天時会場の確保
- ・ 練習場（サブアリーナ）の確保
- ・ プロスポーツの観客数に見合った施設の確保

###### ○武道場（館）

- ・ 宇都宮市内の県体育館武道館、宇都宮市体育館武道場の老朽化
- ・ 練習場（サブ武道場（館））の確保

###### ○弓道場

- ・ 県内唯一の県体育館弓道場（遠的）の老朽化

###### ○サッカー場

- ・ J1基準を満足し、かつ施設基準の変更等に対応できる施設の確保

###### ○野球場

- ・ 県内施設全体の老朽化

###### ○プール

- ・ 県内唯一の飛込みプールの老朽化
- ・ 国体規模の大会が開催できる施設の分散
- ・ シンクロナイズドスイミング用の公認プールの確保